

学校体育の課題と努力事項

小学校体育

小学校では、改訂された学習指導要領が令和2年度より全面実施となったものの、感染症拡大防止対策を講じた体育授業の在り方への試行錯誤が続いている。しかしながら、様々な状況下においても、学習指導要領の趣旨を踏まえ、育成すべき資質・能力を育むための指導を推進していかなくてはならない。

授業の実践に当たっては、育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）や内容（何を学ぶか）を明確にし、それぞれの運動が有する特性や魅力、発達の段階に応じた楽しさを味わわせ、一人一人の伸びや成果を積み重ねていく学習が重要である。そのためには、一時間一時間のつながりを意識した学習過程を組み立て、毎時間の授業の充実を図りながら、資質・能力の三つの柱をバランスよく育てていくことが求められる。そして、「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」を日々実践していくことで、**運動好きな児童**を育てていきたい。

令和2年度の課題

- 1 新学習指導要領の趣旨及び児童の実態を考慮した各学校の指導計画・評価計画の活用と改善
- 2 新学習指導要領の趣旨及び本県が目指す体育授業を考慮した学習指導の改善・充実
- 3 学習規律の確立・共通理解と徹底

1 学習指導の成果と課題

成果

- (1) 「小学校体育に関する調査」から
- 学習指導要領に対応した年間指導計画を作成している学校 703校 (100%)
 - 授業実践後、次年度に向けて指導計画の修正をしている学校 700校→703校 (100%)
 - 単元の評価規準を作成している学校 466校 (66.3%)
- ※内容のまとめりごとの評価規準作成状況は100%
- (2) 「小学校体育授業研究会」等から
- 1時間のねらいを明確にした授業、運動量と思考・判断・表現等をする場面のバランスを確保した授業が多く見られた。

課題

(1) 学習指導の改善・充実

- 運動の特性や魅力、発達の段階に応じた楽しさを味わうことのできる体育授業を実践する。
- 一単位時間の学習において、ねらい、学習活動、振り返りとまとめのつながりを意識して、指導と評価の一体化を図った体育授業を展開することで、指導内容の確実な定着を図る。
- ICTを活用した授業を積極的に展開し、より効果的な体育授業を展開する。
- 昨年度実施できなかったり、指導が十分でなかったりした単元及び学習内容を確実に実施する。

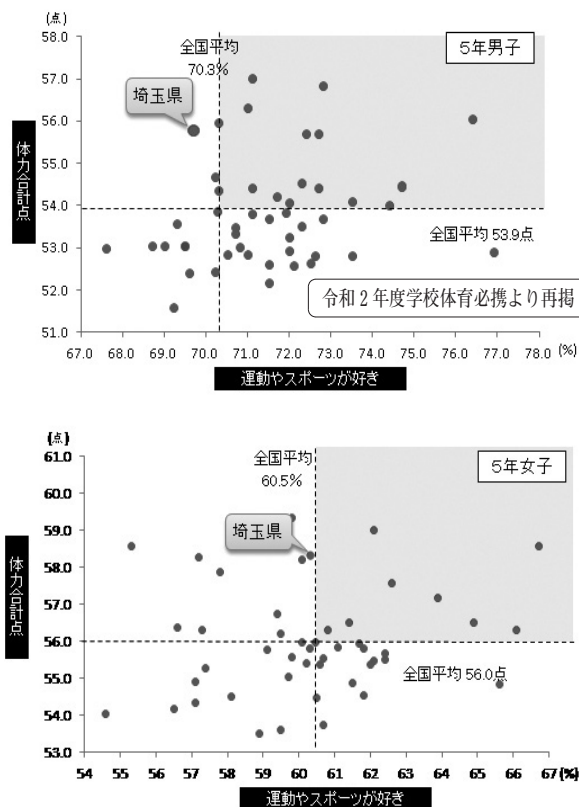


図1 体力合算点と運動・スポーツ好意度の関係
～令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 質問紙から～

「臨時休業に伴う学習状況」について

(1) 指導計画の変更等の状況 (複数回答可)

- 領域の実施時期を変更 649校 (92.3%)
- 領域の実施時間数を変更 469校 (66.7%)
- 実施しない領域を設定 400校 (56.9%)

～「小学校体育に関する調査」から～

(2)水泳運動系の学習実施状況

○水泳運動系の授業をプール（自校・その他含む）で実施した学校 全県で3校のみ実施
 ※水遊びや水泳運動などの心得については全ての学校で実施
 ～「小学校等プール及び水泳指導に関する調査」から～

2 児童の体力等の成果と課題

成果

(1)令和元年度「新体力テスト」から（※図2）
 ○総合評価A+B+C 82.8%（県目標値80%）
 (2)令和元年度「全国体力・運動能力，運動習慣等調査質問紙」から
 ○体力テストの結果や体力・運動能力の向上について，自分なりの目標を立てている。
 男子78.2%（全国74.5%）女子79.4%（全国74.2%）

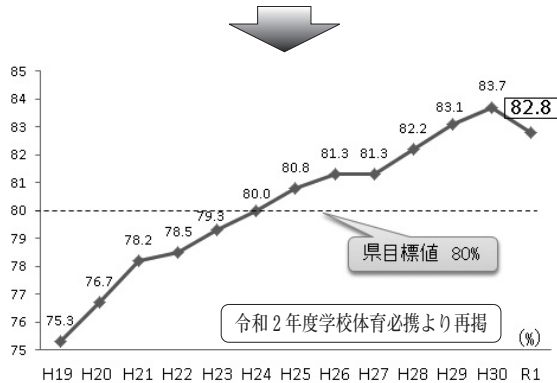


図2 新体力テスト総合評価A+B+Cの割合

課題

(1)学校、学年、学級、児童個々の課題の的確な把握
 ○「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」の分析結果や体力プロフィールシート等を活用し，学校、学年、学級、児童個々の課題を的確に把握する。
 (2)運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫
 ○業前運動等の意図的な運動や，休み時間の日常的な運動の機会を確保し，運動好きな児童を育てる取組を工夫する。

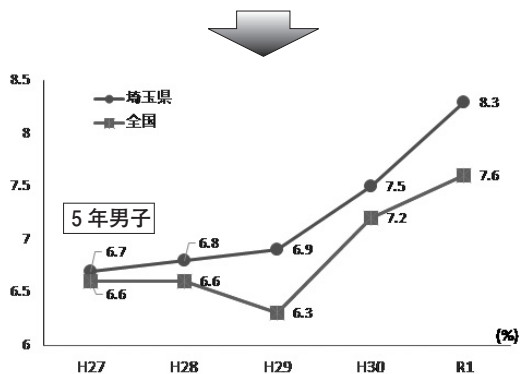


図3 1週間の運動時間が60分未満の児童の割合

3 体育的活動時の事故の現状と課題

現状

「独立行政法人日本スポーツ振興センター資料」から（※図4, 5）

- R1の体育的活動の事故件数 6,064件(117件減)
- R1の体育授業中の事故件数 5,405件(88件減)
- 学校管理下の事故における体育的活動の事故の割合 33.5% (0.3p増)
- 体育的活動の事故における体育授業中の事故の割合 89.1% (1.1p増)

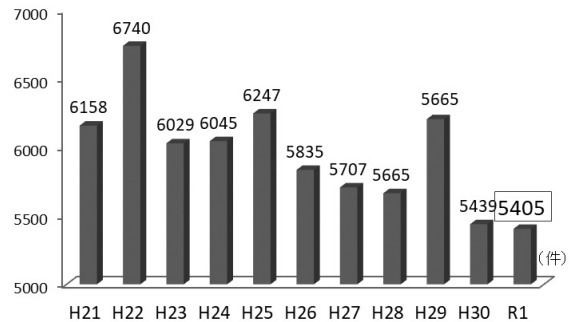


図4 R1小学校体育授業中の事故件数の推移

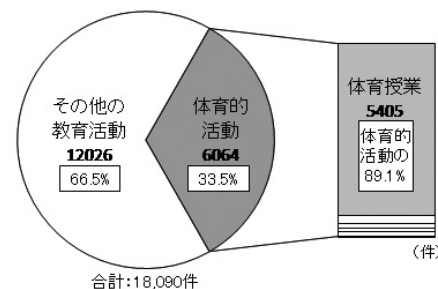


図5 R1小学校学校管理下の事故件数(災害申請件数)

課題

- (1)学習規律の確立及び安全に留意する態度の育成
 ○適度な緊張感のある，よい雰囲気の中で，効率よく集中して学習に取り組めるように，学習指導要領の「学びに向かう力，人間性等」の協力や安全の内容について意図的・計画的・継続的に指導・評価を行う。
- (2)危機管理体制の確立
 ○事故の未然防止策と発生時の適切な初期対応及び全教職員の役割分担等を明確にし，マニュアルに示すとともに共通理解を図る。

以上のことから，本年度の課題を次のとおりとする。

令和3年度の課題

- 1 学習指導の改善・充実
- 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫
- 3 体育的活動時の事故防止

令和3年度の課題と努力事項

令和2年度から全面実施となった学習指導要領では、これまで重視してきた自己の運動や健康についての課題の解決に向け、自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き推進するとともに、体育科で育成を目指す「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の

資質・能力の三つの柱をバランスよく育む授業の実施が求められる。

また、体育授業を核としながら、学校教育活動全体を通じて、運動の機会を確保し、運動好きな児童を育成することも重要である。

以下に、令和3年度の三つの課題について、その努力事項を記す。

課題 1

学習指導の改善・充実

ポイント

埼玉県の小学校体育科の大きな課題は、児童の体力や運動技能は全国平均と比較しても高い状況でありながら、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と感じている児童の割合が全国平均以下ということである。(p18図1参照)

この課題を解決するためには、日々の学習指導を見直し、改善・充実を図っていくことが不可欠である。その視点として、以下に五つを示す。

(1) 運動の特性を踏まえた授業づくり

<運動の特性>

- ・効果的特性：運動が心身の発達に与える効果
- ・構造的特性：運動の形式や技術の仕組み
- ・機能的特性：運動の欲求や必要を充足する機能

運動の特性に応じた楽しさや喜びに触れたり、味わったりするには、効果的特性及び構造的特性を踏まえた上で、特に機能的特性を中心に授業を計画していく必要がある。

機能的特性の主な種類	主な運動領域
競争(走)して勝敗を競い合う楽しさ	体づくり運動系, 陸上運動系, 水泳運動系
記録に挑戦して達成する楽しさ	体づくり運動系, 陸上運動系, 水泳運動系
難しい動きに挑戦して、克服できる楽しさ	体づくり運動系, 器械運動系, 陸上運動系, 水泳運動系
ゲームで勝敗を競い合う楽しさ	ゲーム・ボール運動
他のものになりきって踊る楽しさや、感情や考えを身体の動きで表現する楽しさ	表現運動系
身体が心地よくなる楽しさ	体づくり運動系

チェックポイント：特性に触れた楽しさや喜びに触れたり、味わったりするための学習活動になっているか

【例】ボール運動

自分たちに合った作戦は？

どんな練習が必要？

ゲームに勝ちたい
そのために…

得点につながる動きは？

チームワークが大事だな。

【例】器械運動

自分の課題は何か？

技のポイントは？

技ができるようになりたい
そのために…

友達の動きを見てみよう。

安全に気を付けて練習しよう。

チェックポイント：6年間を見通した指導の計画になっているか
児童にとって難しすぎる(易しすぎる)内容になっていないか

(2) 発達の段階に応じた授業づくり

段階	児童の姿等	指導のポイント (運動の楽しさや喜び、動きや技能を中心に)
低学年	・思考と活動が未分化な時期。 ・様々な運動遊びの経験から多様な動きを身に付ける時期。	・運動遊びの 楽しさ ^{※1} に 触れる ^{※2} ことができるように、易しい運動遊びを活発に行うことで、基本的な 動き ^{※3} を幅広く身に付けられるようにする。
中学年	・スムーズな動きや複雑な動きができだす時期。 ・自分の動きを意識したり、理解したりすることができる時期。	・運動の特性に応じた 楽しさや喜び ^{※1} に 触れる ^{※2} ことができるように、各種の運動の基本となる 動きや技能 ^{※3} を身に付けられるようにする。
高学年	・自分を客観的に捉えられるようになり、知的な活動も活発になる時期。 ・身体が大きく成長し、自己肯定感をもち始める時期。	・運動の特性に応じた 楽しさや喜びを味わえる ^{※2} ように、基本的な 技能 ^{※3} を身に付けるようにする。

※1
中学年から「楽しさや喜び」に触れることを求めている。ここでの「喜び」とは、友達と協力して得られる達成感や課題を解決した成就感のことである。

※2
低、中学年の「触れる」段階から「味わう」ことを重視している。楽しさとともに、運動の特性に即して自己の能力に応じた各種の運動の行い方を理解し、その基本的な技能を身に付けたり、それをプレイ等の中で発揮したりすることで喜びを味わうことに重点を置いている。



※3
「技能」は概ね「特定の運動をするための合理的な体の動かし方、操作の仕方」が身に付いた状態を示し、「動き」は「技能の前段階、初歩的な段階」と捉えることができる。
【例】前転は「技能」、前回は「動き」

(3) 指導内容の確実な定着を図る授業実践

指導内容の確実な定着を図るためには、単元の目標を基に、毎時間の指導内容を明確にし、それを意図的・計画的に配置することが重要である。
(詳細は p 39 学習指導計画作成上の留意点(3)指導と評価の計画参照)

授業者は、児童が「取り組みたい!」「解決したい!」と思える必要感のあるねらいを明確に示すとともに、学習活動、振り返りとまとめのつながりを意識した指導と評価を心がける。

主な学習活動	指導のポイント
<p>ねらいの提示</p> <p>主運動等</p> <p>このチームの特徴は何か？ それに合った作戦が選べるといいね。</p>	<p>・前時までの学習内容や児童の言動、気付き、学習カードへの記述などから、児童にとって必要感のある課題を提示する。</p> <p>【児童の発言を基に、めあてを提示する場面の例】 T:前の時間で〇〇さんが上手になったのはどうしてかな? C:ペアの△△さんに見てもらって、自分が取り組むポイントがわかったからです。 T:なるほど。では、今日の学習は、技を上手にするために、友達の動きを見て、気付いたことを伝えることを全体のめあてとして学習しよう。</p> <p>本時のねらいに迫る指導</p> <p>・本時のねらいが「知識及び技能」であれば、運動の行い方や動きのポイントを理解できるようにする場面、「思考力、判断力、表現力等」であれば、課題を把握したり、自己に応じた課題や活動の場を選択したり、他者に自分の考えを伝えたりすることができるようにするための場面において、意図的な発問をしたり、効果的な事例を提示したりするなど本時のねらいを踏まえた指導を心がける。</p> <p>本時のねらいに即した評価</p> <p>・本時のねらいに応じた言葉かけを行う。また、努力を要すると判断される状況の児童への指導の手立てを明確にし、積極的な指導を心がけるとともに、十分満足できると判断される状況の児童へは、発展的な内容に取り組めるようにする。</p>

振り返りとまとめ

人がいない場所に動くと、パスがもらえることがわかった。



- ・本時のねらいに沿って、自分ができるようになったこと、わかったことなどを児童が個人で振り返る。
 - ・本時で何を学んだのかを教師と児童で整理する。その際、児童の振り返った内容と関連付け、本時の学習活動の価値を実感できるようにしたり、次時の学びへのきっかけとなるようにしたりする。
- ※振り返りとまとめについては順序性を求めるものではない。本時の学習内容や児童の活動を踏まえ、より効果的な指導を心がけたい。

(4) ICTを活用した授業実践

令和2年度より全面実施となった学習指導要領では、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実が明記された。

体育科の授業においても、ICTを積極的に活用した授業を展開することで、苦手だった運動ができるようになったり、運動することへの意欲が高まったり、自己の健康課題に主体的に取り組めるようになったりすることが期待される。

活用に当たっては、その意義や、以下の留意点等を踏まえることが重要である。

- ・ICTを使用することが目的ではなく、授業を効率的に進めたり、学びを深めたりするためのツールであること。
- ・5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、どのように等）を明確にすること。
- ・運動量が著しく少なくならないようにすること。
- ・ICTの特徴（例えば動きを客観視できること）とアナログのよさ（例えば踏切りの感触を確かめること）を組み合わせること。

【具体的な活用場面例】

①知識の習得

- ・運動の行い方について、全体で共有を図ったり、必要に応じて、見たい動きを各自で繰り返し視聴したりする。



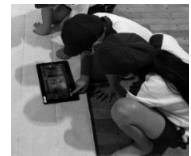
②技能の習得

- ・自分の動きを繰り返し見ること、動きのポイントと自分の動きを比較し、できている点や修正点を確認する。
- ・毎時間の動きを記録することで、動きの変容を確認する。



③思考力、判断力、表現力等の育成

- ・自分の動きやペア・チームの動きを互いに視聴しながら、課題解決に向けて意見を交流する。



④学びに向かう力、人間性等の涵養

- ・学習カード等として使用することで、その場で記録の変容を実感したり、過去の記録や全国平均値との比較をしたりする。



【参考】総合教育センターホームページ内

「市町村立学校版 ICT教育ガイドライン ver.2」及び「各教科のICT活用事例」

<https://ecsweb.center.spec.ed.jp/gimushi>



(5) 学びの保障のための教育活動の実施

臨時休業等の影響により、令和2年度に実施できなかった領域、あるいは十分に指導時間が確保できなかった領域があることが想定される。

そのため、限られた授業時数の中で、指導すべき内容を効果的に指導していく必要がある。ここでは、家庭学習との関連を図った指導の工夫について取り上げる。

① 学習カード等の活用

児童が家庭学習として取り組める内容を学習カード等に位置付け、関連を図った指導を行う。

【指導例】※下線が家庭学習と関連を図った指導が考えられる内容

	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識	技能		
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の課題や約束 ・場や用具の使い方 ・場の安全の確保等 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の基本となる技能を、それぞれの特性に応じて身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組もうとする。 ・約束を守り助け合って運動しようとする。 ・仲間の考えや取組を認めようとする。 ・場や用具の安全に気を配る。

知識及び技能	
知識	技能
・運動の課題や約束 ・場や用具の使い方 ・場の安全の確保等	各種の運動の基本となる技能を、それぞれの特性に応じて身に付ける。

ハードルを走り越えるときの約束は…
4年生までの学習で学んだことは…



運動の約束や場の安全確保の仕方、これまでの学習内容などをカードに記載し、各自が確認できるようにする。

知識及び技能	
知識	技能
・運動の課題や約束 ・場や用具の使い方 ・場の安全の確保等	各種の運動の基本となる技能を、それぞれの特性に応じて身に付ける。



以下の点に留意した運動を学習カード等に掲載し、家庭で取り組めるようにする。
・個人や少人数で取り組める運動。
・身体的負担が確保できる運動。
・ケガの可能性が限りなく無い運動。

思考力、判断力、表現力等
自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。



私のチームが次のゲームで勝つには…
〇〇さんのよかった動きは…
学校での学習を振り返り、わかったことや、次の時間に取り組みたいこと、仲間に伝えたいことなどを学習カード等に記入できるようにする。

② 学習コンテンツの活用
各種学習コンテンツを活用し、家庭学習との関連を図った指導を行う。
【参考】スポーツ庁ホームページ
「家庭での体育、保健体育の学習コンテンツ参考例」
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00027.htm

課題 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫

ポイント
児童の体力は向上の傾向にあるものの、積極的に運動する児童とそうでない児童の二極化はますます広がっている。1週間の運動時間が60分未満の児童の割合も、全国平均と比較して多い状況にある。(p19図3参照)
このような状況を改善するには、体育授業に加え、学校教育活動全体を通じて、様々な工夫により運動の機会を確保し、運動好きな児童を育てることが重要である。

【取組の例】

(1) 業前・業間運動の実施

自校の体力課題を踏まえた活動や、時季に応じた活動、継続して取り組むことで児童が自己の伸びを実感できる活動等を年間を通して計画的に位置付け、実施する。

なお、実施に当たっては、児童が楽しんで取り組める内容となるよう留意することが大切である。



体力課題に応じた業前運動
【越谷市立明正小学校】

(2) 外遊びの励行

例えば業間休みは外遊びの時間とし、体を動かす機会を確保したり、運動の生活化を図ったりする。



外遊びアイデア集の配布
【越谷市立城ノ上小学校】

(3) 環境の整備

児童がすぐに使用できるように、用具の配置場所を工夫したり、コート等のラインを事前に引いておいたりする。

また、活動の仕方や各遊具を用いた遊びの難易度等を示した段階表などを掲示することも効果的である。

目指せ 上南の柱
体を鍛えてみんなが憧れる柱を目指そう!!
下の表をクリアしたら1マス進もう。

級別	練習内容	練習内容
新1年生	縄跳び	縄跳びで2分連続跳ぶ。
新2年生	縄跳び	縄跳びが速上がりできるようになる。
新3年生	ペルマテック	反復練習の動きで10回連続ジャンプする。
新4年生	ジャンプアップ	ジャンプアップを連続して行う。
新5年生	バドミントン	縦向きバドミントンを行う。
新6年生	バドミントン	横向きバドミントンを行う。

遊具を活用した活動の工夫
【川口市立上青木南小学校】

(4) 家庭との連携

家庭で取り組める運動を記載したカードを配布したり、自校の体力面について周知を図ったりする。



保護者向け通信
【越谷市立大間野小学校】

課題 3 体育的活動時の事故防止

体育的活動中の事故件数は減少しているものの、体育授業中の事故の割合は増えている。

右の「体育授業・運動部活動における事故防止の5則(埼玉県教育委員会)」を基に、未然の防止対策を徹底するとともに、事故が起ってしまった

た際の適切な対応について、全教職員で共通理解を図ることが重要である。

- 体育授業・運動部活動における事故防止の5則
- 1 児童生徒の実態に即した指導計画の作成
 - 2 施設・設備・用具などの日々の安全点検の励行
 - 3 活動開始前の健康観察の実施
 - 4 活動中や活動後の声掛けと安全確認
 - 5 事故発生時の迅速かつ適切な対応